

令和2年10月7日(水) 午後3時～

岬高等学校 会議室

出席者【委員】見先、島崎、山路、田中、矢田(欠席)、齋藤

【岬高校】校長 教頭(2名)、事務長、首席(2名)

教務主任代理兼山人海人プロジェクト委員長

進路指導主事、生徒指導主事

教育相談委員長、各学年主任(3名)、初任(3名)、SSW

1.【はじめに】

① 学校長挨拶

- ・コロナ禍の中、ご来校いただきありがとうございます。
- ・夏休みも短く、猛暑の中であったが、生徒は活発で、サッカー部が復活、海岸清掃をする同好会なども立ち上がっている。
- ・進路においてはコロナの影響で求人減
- ・3年連続定員割れで広報に力を入れてきた。支援教育にも力を入れてきたが定員には達しなかった。しかし、これまでにこなかった遠方からも受験があり、登校している生徒もいる。

② 学校運営協議会委員の紹介

2.【連絡及び報告】

① 令和2年度第1回授業アンケートの結果について

- ・コロナの影響で学びにくい中、アンケートの数値はすべての項目が上がっている。
- ・「予習、復習ができています」、「授業をしっかり聞いている」という項目が特に高い。
- ・「知識・技能が身についた」、「興味・関心をもつことができた」という項目などは上がってはいるが、依然として低め。現在、新系列の立ち上げ等、対策を考えている。
- ・授業のわかりやすさなどは、エンパワメントスクールになってから非常に伸びている。

② 4月からの本校の様子

<新型コロナウイルス感染症に関わって>

・オンライン学習

休校中は課題の郵送と分散登校で対応。

大阪府がGoogle社と契約。大阪府全体でGoogle Classroomを活用することに。

定期的に教員研修を行っている。

・修学旅行

来年度に延期。

・TV合同学校説明会

泉南地区合同でテレビ岸和田で放映。各学校5分程度の動画。

<その他>

・部活動

サッカー部が復活し公式戦出場。

他に4つの新しい同好会が立ち上がっている。

クラブ加入率13.4⇒34.8%。

・地域 山海人

例年の活動内容の確認

今年度の活動内容

コロナ禍における感染の不安もあり、校内のみの実施予定。

具体的な実施方法は検討中。

・ボランティア（ピリカ同好会）

長松海岸の清掃活動等

・中退防止のための校内研修

・尾保手様による動作アセスメントとコーチングの教員研修の様子

・少人数クラス

体育でSUPを取り入れたり、宿泊研修を行っている。

ピリカ同好会発足

特性に応じた指導

無記名アンケートの結果報告。肯定的回答が多い。

・教育相談

子どもも大人もコロナ禍でのストレスが少なからずある。

毎日、昼休みに教育相談室を開放

コミュニケーションゲームを活用している。

普段から安心・安全な居場所づくりに心がけている。

11月3日にはNPOはらっぱの「こども市」にてボードゲーム体験会を出店。

・教職大学院生（大阪教育大学大学院）学校実習

数学・家庭科で各1名ずつ実習生が来ている。

数学においては、現「数学活用」の内容が令和4年度より数学A・B・Cに移行する。

多くの学校で実施され、内容として数学的なパズル・ゲームを扱うことになる。

おもしろいパズルやゲームは著作権の関係であまり教科書には載らないことが予測される。

教科書どおりに教えることが難しくなり、現場の教員の独自の研究が必要になる。

後期より、その内容の研究を本格的に始める予定。

③ 各部署の事業報告

・進路指導部

コロナの影響で求人の状況はよくない。

サービス・営業・販売が減っている。

技能・ものづくり等も関西空港関係にも影響が出ている。

進学希望者より指定校推薦の数が多く、進学希望者8名が第1希望の学校を受験予定。

インターンシップ等、今年度は中止。

質疑応答

Q. オンライン学習の様子

A. 組み立てている途中。設備面の課題あり。来年度からは端末の貸し出し等がある予定。

現在、各自のスマートフォンを使わせてGoogle Classroomの試行を行っている。

プリントを写真に撮って送信すると、生徒がその画像を開いて、そこに指で直接書き込んで返信できる。さらに、それを教員が採点をして返すことができる。便利な面もある。

来年度からは、オンライン授業というよりは、普段の指導と並行して連絡手段などとしても活用することになると思われる。

Q. 部活動加入率は上がっているが、分母生徒数が大幅に減っている。学校として中退防止に向けた取り組みは？

A. 通級指導教室の設置、少人数のクラス編成などの取り組みにより、一人ひとりの生徒をしっかりと見る教員が多くなり、支援教育の知識が学校全体として身につけてきていることから、授業アンケートの肯定的回答率が向上するなど成果はでている。

Q. 新学習指導要領に向けた取り組み

A. 本校においては、学校設定科目が多く、影響は少ない。

それよりも来年度から本格的に始まる新系列の内容づくりに力を入れている。

観点別評価については動き出しており、教務部を中心に、他府県や中学校の情報を収集している。

その上で、本校にとってどのような方法がよいかを検討中。

3. 【協議事項】

① 令和3年度使用教科書の選定について

承認いただきました。